

敬語・待遇表現 現在の使い方のまとめ

基礎ゼミ資料2017v2

首都大学東京 西郡 仁朗

jirom@tmu.ac.jp

1. 従来の敬語の分類

- ・ 「尊敬語」「謙讓語」「丁寧語」「美化語」
- ・ 「素材敬語」と「対者敬語」 参照：時枝(1941)の「詞」と「辞」



2. 日本語教育初級での一般的導入方法

- ・ 「～です」「～ます」・・・敬体（丁寧体）polite (style)
⇔常体（普通体）no-polite/plain (style)
- ・ 尊敬 honorific (style) 謙讓 humble (style) ・・・主に動詞
尊敬・・・お+[動詞ます形]+になる 例：「お書きになる」
[動詞ない形]+れる／られる 例：「聞かれる」
定型表現 例：「いらっしゃる」「召し上がる」「ご覧になる」
謙讓・・・お+[動詞ます形]+する 例：「お持ちします」

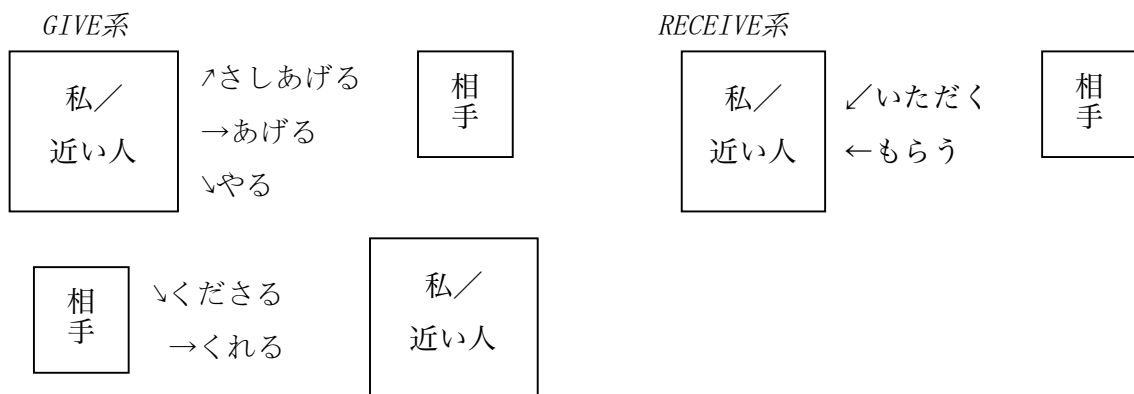
定型表現 例：「まいります」「おります」

説明概念：上下関係(superior/inferior)、ウチ・ソト(In-Group, Out-Group)

- やりもらい表現 (授受表現, 受給表現, Giving and Receiving)

物の受給, 行為の受給：{動詞て形}+補助動詞, 恩恵

「あげる (さしあげる/やる)」「もらう (いただく)」「くれる (くださる)」



? (ホテルのドアマンが客に)「私が荷物を持ってさしあげます」

? (スピーチの前に)「私の国について紹介してあげます。」

3. 現在の敬語の分類方法

宮地 (1971) の分類

- <1> 尊敬語=話題のひとやその行為・所有の表現を通して、話手はそのひとへの敬意的配慮を表す敬語
- <2> 謙譲語=話題のふたりのあいだの行為の表現をとおして、話手はその上位者への敬意的配慮をあらわす敬語
- <3> 美化語=話題のものごとの表現をとおして、話手が自分のことばづかひの品位への配慮を表す敬語
- <4> 丁重語=話題のものごとの表現をとおして、話手が聞き手への敬意的配慮をあらわす敬語
- <5> 丁寧語=話手が、もっぱら聞き手への敬意的配慮をあらわす敬語

「敬語の指針」文化審議会答申(2007)による5分類

尊敬語：相手側または第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べる。例：先生は来週海外へいらっしゃるんですね。「先生のお導き」「お名前」「先生はお忙しいようですね。」「先生が指導してください。」

謙讓語Ⅰ：自分側から相手側または第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの。例：「先生のところに伺いたいんですが。」「先生にお届けする。」「先生をご案内する。」「先生、そのかばん、私がお持ちしましょう。」「先生からいただく。」「先生へのお手紙」「先生へのご説明」「息子が先生のところに伺いました。」

謙讓語Ⅱ（丁重語）：自分側の行為・ものごとなどを。話や文章の相手に対して丁重に述べるもの。例：「明日から海外に参ります。」「バスが参りました。」「向こうが子どもが大勢参りました。」「夜も更けて参りました。」「拙著」

丁寧語：話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。例：「です」「ます」「でございます」

美化語：ものごとを、美化して述べるもの。例：「お酒」「お料理」

4. 「敬語の具体的な使い方」に関するFAQ

(ペアで検討してみましょう。)

【1】駅のアナウンスで「御乗車できません。」と言っているが、この敬語の形は適切なのだろうか。

【2】受付の人に「担当者に伺ってください。」と言われたが、客に対する言い方としては何だか妙な感じがした。どこが変なのだろうか。

【3】「お知らせ」として配布された文書に、「来週の日曜日に消防設備の点検に伺いますが、御在宅する必要はありません。」と書いてあった。どうも気になる言い方なのだが、どこが問題なのだろうか。

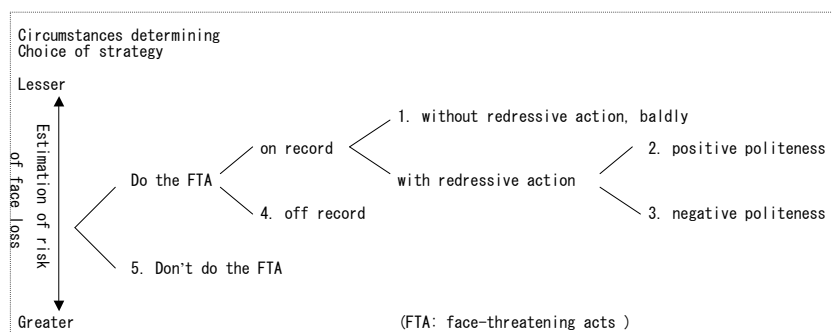
- 【4】自分のことに「お」や「御」を付けてはいけないと習ったような気がするが、「お待ちしています」や「御説明をしたいのですが」などと言うときに、自分の動作なのに、「お」や「御」を付けるのは、おかしくないのだろうか。これは、どう考えれば良いのだろうか。
- 【5】「させていただく」をあまり使わない方がよいときいたが、実際には、見聞きすることが多い。また自分でも「それでは、発表させていただきます。」などと言ってしまいが、どう考えれば良いのだろうか。
- 【6】選挙演説を聞いていたら、「現政権のこの点が、民主化に逆行しているとお訴えさせていただきたいと思います。」と言っていた。この表現は正しいのだろうか。
- 【7】保護者からの電話で、同僚の田中教諭の不在を伝えるときに、「田中先生はおりません。」と伝えたが、それで良かったのだろうか。それとも「田中はおりません。」と伝えた方が良かったのだろうか。
- 【8】時間外に仕事を教えてくれた上司に「どうも御苦勞様でした。」と言ったら、「御苦勞様はないだろう。」と笑われてしまった。それで、書類作成に追われた上司が帰る時には「御苦勞様」以外の言い方を考えてみたのだが、適切な表現が浮かばず、そのままになってしまった。そういう気持ちを表したい場合には、どうすれば良いのだろうか。
- 【9】「それ、取ってもらってもいい（ですか）。」「こちらの書類に書いていただいてもよろしいですか。」というような言い方をよく耳にする。「取ってちょうだい。」や「取ってください」、「書いていただけますか。」に比べると、何だか回りくどい言い方に聞こえてしまう。こうした表現については、どう考えればいいのだろうか。

【10】レストランで働いているのだが、いつも「ご注文の品はおそろいになりました
 でしょうか。」と言いながら、何だか変な表現だと思う。なぜ変なのだろうか。ど
 う言えば良いのだろうか。

【11】「先生はあの展覧会を拝見されましたか。」と先生に向かって言ってしまった。
 自分で何か違和感を感じたのだ正しい使い方だったのだろうか。

【12】会社の同僚が「明日、家庭の事情で休まさせていただきます。」と言った。妙
 な表現だと思うのだがどこが変なんのだろうか。

5. Brown and Levinsonのポライトネス理論



- ‘face’, the public self-image that every member wants to claim for himself, consisting in two related aspect:
- (a) **negative face**: the basic claim to territories, personal preserves, rights to non-distraction – i.e. to freedom from imposition.
 - (b) **positive face**: the positive consistent self-image or ‘personality’ (crucially including the desire that this self-image be appreciated and approved of) claimed by interactants.

Brown, P. and Levinson S. C. (1978) “ Politeness – Some universals in language usage”

ポライトネス

- ・ネガティブポライトネス：自己の存続の欲求のため、負担を減少するコミュニケーション手段
- ・ポジティブポライトネス・・・社会の一員としての存続の欲求のため、認めたり、仲間とみなすことを増加するコミュニケーション手段

ポライトネスの使用方法

- I ポライトネスの不使用：聞き手の負担を軽減せずに強い命令として行われる。依頼者の地位がよほど高くなければ、人間関係が損なわれやすい。
- II ポジティブポライトネス：聞き手の認められたいという意識を満足させるもので話し手が聞き手に親密な行動をとる。聞き手の負担軽減度は少なく、丁寧さは低い。
< 3つの手段 >
 - a. 共同の基盤に立っていること。
 - b. 話し手と聞き手が協力関係にあること。
 - c. 聞き手の要望に応えることを表明すること。
- III ネガティブポライトネス：他人からの負担を免れたいという聞き手の自己保存の欲求を満足させるもの。話し手が聞き手に敬意を示す。

< 4つの手段 >

- a. 聞き手が依頼内容をしてくれると推測しないこと。
 - b. 依頼内容を強制しないこと。
 - c. 聞き手に負担をかけないことを示すこと。
 - d. 負担を軽減すること。
- IV 負担を直接かけない方法 (off record)：間接的な表現を使用し、依頼したかどうかは聞き手の判断に委ねられる。1. 聞き手に文字通りでないコミュニケーションであることを知らせる。2. 何を意味しているのか察知させる

6. ある留学生の敬語についての印象

「私の母語には敬語のように、人によって言葉遣いをかえることがない。敬語はことばとして1非常に複雑で、簡単に覚えられない。また、人間を上下に分けていて、現代の

社会に合わないような気がする。年上の人に親しみをもって接したいときにも敬語を使わなければならないし、尊敬していない人や年下の人にも敬語を使う場合がある。窮屈だし、自分らしくふるまえないような気がする。」

下記の質問にペアで考えてみた上で上記の質問に答えてください。

【1】敬語は、人間を上下に位置づけようとするものであり、現代社会には、なじまないようにも思う。どう考えれば良いのだろうか。

【2】尊敬している人には敬語を使って話したいのだが、社会人は、尊敬していない人にまで敬語を使わなければならないのだろうか。

【3】敬語を使うと、自分の気持ちが素直に表せない気がする。むしろ敬語を使わない方が自分らしさを表すことができるのではないだろうか。

【文献】時枝誠記(1941) 『国語学原論』岩波書店

宮地裕(1971) 『文論』明治書院

文化審議会答申(2007) 「敬語の指針」

Brown, P. and Levinson, S. C. (1987) “Politeness: Some Universals in Language Usage”, Cambridge University Press.